

## 大阪の秋の夜空にジャズの調べが響く！「OSAKA SWING NIGHT 2022」開催

大阪城公園全域で文化芸術、音楽、飲食など多彩なプログラムで開催されている「大阪城夢祭」期間中、大阪城音楽堂では、様々なジャンルのライブが楽しめる「LIVE GUMBO PARK」が行われました。19日（水）のイベントは「OSAKA SWING NIGHT 2022」。結成64年の歴史を誇る「アロー・ジャズ・オーケストラ」が素晴らしい演奏とともに、豪華ゲストとのコラボステージなどを楽しませてくれました。

アロー・ジャズ・オーケストラは、長きに渡り、精力的なライブ活動を続けている老舗ビッグバンド。関西ジャズ界のみならず、日本を代表する名門バンドです。今回は伸びやかな声で多くの人を魅了している女性シンガーのMs. OOJA、伊東妙子さんと篠田智仁さんによる男女デュオの「T字路」、そしてジャズバイオリニストの寺井尚子さんとのセッションを聴かせました。



オープニングはジャズファンにはおなじみの「A列車で行こう」から。トロンボーンのソロをたっぷり楽しませてくれたあとは、映画音楽の「007のテーマ～ピーターガン」と2曲続けて聴かせます。続いての「イエスタディ」では、静かな秋の夜空にぴたりとハマるムーディなテナーサクソにオーディエンスも聞き惚れます。そして、昭和の名曲「高校三年生」で締めくくりました。

ここからはゲストとのセッション。トップはジャズバイオリニストの寺井尚子さんです。スタンダードの「枯葉」、「All of Me」と2曲続けて演奏。しなやかで伸びのあるバイオリンの音色が、ジャズのリズムに乗り、いきいきとメロディを奏でます。

アロー・ジャズ・オーケストラと寺井さんは共演が多いものの、野外は初めてとのこと。夜空の下で行うライブについて、寺井さんは「気持ちいいですね！」と笑顔です。続いてのナンバーはエディット・ピアフの名曲「愛の讃歌」をアレンジでしっとり、そして情熱的に聴かせてくれました。MCの西田武夫が、寺井さんは明日の朝7時から千葉で仕事があるにも関わらず、誘ってみると二つ返事で来てくれたと明かすと、会場からは拍手が起こりました。ラストはチック・コリア作曲の「SPAIN」。たっぷりジャズバイオリンの響きを堪能さ

せてくれました。

2組目のゲストは Ms. 00JA。1986年リリースの「六本木純情派」から「水色の雨」、「飾りじゃないのよ涙は」と、昭和のヒット歌謡を聴かせてくれました。どの曲もジャズアレンジに Ms. 00JA のパワフルな声がピタリとハマる出色の出来栄え。MC では西田さんが「歌謡曲の伴奏をするのは我々も楽しい」と話すと Ms. 00JA も笑顔に。そして今年リリースされた CD「流しの 00JA2」には今回披露した曲が収録されていること、さらに11月2日（水）には Zepp Namba で誕生日ライブを行うこともアピールしました。



3組目のゲストは T 字路 s。1曲目は「これさえあれば平気さ、望むものなど何もない」と歌う、オリジナルソング「これさえあれば」。ノリのいいミディアムテンポのメロディにトランペットが色を添えます。そして特筆すべきは伊東さんのシャウトするボーカル。その迫力であっという間に会場の雰囲気をつかみました。伊東さんは「普段は2人組で活動しているので、今日はゴージャスなバンドに演奏していただいて、大変ときめいております」と挨拶すると、会場からは拍手が。続いては「大好きな小林旭さんの曲」と紹介して「熱き心に」、そしてボーカルが荒野を想起させる「泪橋」へと続けます。

改めてビッグバンドをバックにしたライブについて「胸がバクバクしております、こんなゴージャスな気持ちはなかなか味わえないことなので」と伊東さん。篠田さんも「めちゃくちゃ気持ちいいですね！」と笑顔を見せます。T 字路 s のラストは「私たちの大大大好きな」と紹介して、RCサクセションの「スローバラード」。切ないメロディをホーン・セクションが盛り上げました。

そしてライブのラストは再びアロー・ジャズ・オーケストラの演奏で。「最後は静かな曲を」と、アロー・ジャズ・オーケストラのオリジナルアレンジで「星に願いを」をプレイ。ゆったりと流れるメロディが大阪の夜空に響き、ライブは終了しました。